

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2025



所 属： 心理臨床学科

名 前： 岩永 靖

ティーチングポートフォリオの作成・更新手順

ティーチングポートフォリオ（TP）は、教育活動の成果や実践を記録し、教育活動を公表するとともに、振り返りや改善に役立てるための重要なツールです。以下に、ティーチングポートフォリオを作成する、または更新する方法を示します。

作成日：2025 年 5 月 5 日

教員氏名：岩永 靖

所属：人文学部 心理臨床学科

1. はじめに

本学では、従来より学生による授業評価アンケートを実施し、今後の授業改善に取り組んできた。また、教員自らがシラバスや学生からの授業評価に加えて、教育に対する取り組みや成果など教育活動全般について網羅的にまとめるためにティーチング・ポートフォリオを作成してきた。ここでは、私の 2022 年度から 2024 年度までの教育活動全般についてティーチング・ポートフォリオとしてまとめ、今後の教育活動に活かしていくこととする。

2. 教育の責任

本学における私の教育責任は、主に心理臨床学科精神保健福祉コースにおける専門科目の担当である。2008 年度入職時より精神保健福祉コース長として精神保健福祉コースの教育、また 2016 年度よりスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程を立ち上げ、現在精神保健福祉士、スクールソーシャルワーカーの養成教育とその統括を行っている。

（1）授業科目の担当

■ 主要授業科目

2022 年～2024 年度の 3 年間は以下の表の科目を担当している。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
心理臨床学の基礎	2022 後期	86 名	心理臨床学科専門必修
心理臨床学の展開	2023-2024 後期	平均 55 名	心理臨床学科専門必修
特別研究	2022-2024 後期	平均 8 名	心理臨床学科専門必修
卒業研究	2022-2024 前後期	平均 10 名	心理臨床学科専門必修
学校ソーシャルワーク論	2022-2023 後期	平均 15 名	心理臨床学科専門選

			択
学校ソーシャルワーク演習	2022-2024 前期	平均 6 名	心理臨床学科専門選 択
学校ソーシャルワーク実習指 導	2022-2024 前後期	平均 6 名	心理臨床学科専門選 択
学校ソーシャルワーク実習	2022-2024 前後期	平均 6 名	心理臨床学科専門選 択
精神保健福祉論Ⅳ	2022 前期	25 名	心理臨床学科専門選 択
精神保健福祉現場体験	2022-2024 前期	平均 16 名	心理臨床学科専門選 択
精神保健福祉援助演習Ⅱ	2022-2023 前期	平均 18 名	心理臨床学科専門選 択
ソーシャルワーク演習（専門） Ⅱ	2024 前期	10 名	心理臨床学科専門選 択
精神保健福祉援助演習Ⅲ	2022-2023 後期	平均 18 名	心理臨床学科専門選 択
ソーシャルワーク演習（専門） Ⅲ	2024 後期	10 名	心理臨床学科専門選 択
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2022 後期	21 名	心理臨床学科専門選 択
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2023-2024 後期		心理臨床学科専門選 択
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2022-2023 前期	平均 18 名	心理臨床学科専門選 択
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2024 前期	10 名	心理臨床学科専門選 択
精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	2022-2023 後期	平均 11 名	心理臨床学科専門選 択
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2024 後期	10 名	心理臨床学科専門選 択
精神保健福祉援助実習	2022-2023 前期	平均 18 名	心理臨床学科専門選 択
ソーシャルワーク実習	2024 前期	10 名	心理臨床学科専門選 択
障害者福祉	2022-2024 後期	平均 57 名	心理臨床学科専門選 択
刑事司法と福祉	2022-2024 後期	平均 39 名	心理臨床学科専門選

			択
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2022-2023 後期	平均 17 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	2023-2024 後期	平均 11 名	心理臨床学科専門選択
精神障害リハビリテーション論	2024 前期	33 名	心理臨床学科専門選択
多職種連携の実際	2023 後期	9 名	人文学研究科必修

担当する科目は主に精神保健福祉コースにおける精神保健福祉養成指定科目及びスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程指定科目を担当している。「障害者福祉」及び「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」、「ソーシャルワーク実習」は長く担当しており、「学校ソーシャルワーク実習指導」「学校ソーシャルワーク実習」も教育課程認可後から担当している。

■ 主要担当科目

「障害者福祉」

本学入職時より長く担当しており、精神保健福祉士養成の指定科目であるが精神保健福祉コースの学生のみならず心理学コース、人間科学コースの学生も学んでいる。障害者福祉の歴史から学ぶことに重点を置きながら現在の障害者福祉の施策、法制度とその課題を学ぶことを重視している。

「学校ソーシャルワーク実習指導」

学校ソーシャルワーク実習を行う上での準備を行う科目である。実習先である教育委員会の市町の人口、産業や社会資源等を調べることにより地域アセスメント力を高め、実習先の児童生徒へどのような影響を与えているのかを考える機会としている。また、実習後は、プロセスレコードを活用したグループスーパービジョンや少人数を活用したトーキングサークル等を実施し、対話を中心としながら実習での学びを深める取り組みを行っている。

「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」

精神保健福祉士のソーシャルワーク実習に向けての準備科目である。それまでの学びを振り返りながら実習計画書作成などに取り組み、事前協議会においては担当教員、実習指導者、実習生で実習目標のすり合わせを行うとともに、実習指導者と実習生がスーパーバイザー・スーパーバイジー関係を作れることを意識し、スムーズな実習への導入を行っている。

学部での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。

■ 非常勤講師

なし

■ 出張講義

2022 年 11 月 7 日、九州学院中高校生 1 年生から 3 年生の希望者を対象に「精神保健福祉士と学校ソーシャルワーク」と題して、精神保健福祉士の成り立ち、ソーシャルワークと学校ソーシャルワーク実践について事例を交えながら講義を行った。

2023 年 8 月 23 日と 30 日、熊本県立熊本西高校アカデミックインターンシップとして 1 年生を対象に「学校ソーシャルワーク とは？」と題し 子どもの貧困や児童虐待の問題と学校ソーシャルワーク実践について講義を行った。

2023 年 9 月 14 日、くまもと中央学院模擬授業として、「学校ソーシャルワーク とは？」と題し 子どもの貧困や児童虐待の問題と学校ソーシャルワーク実践について講義を行った。

2024 年 6 月 9 日、進学ガイダンスセミナーとして、「学校ソーシャルワークとは？～様々な課題を抱えている子どもたちへの支援～」と題し、子どもの貧困や児童虐待の問題と学校ソーシャルワーク実践について事例を交えた講義を行った。

2024 年 9 月 11 日、熊本県立熊本西高校アカデミックインターンシップとして 1 年生を対象に「学校ソーシャルワーク とは？」と題し 子どもの貧困や児童虐待の問題と学校ソーシャルワーク実践について講義を行った。

(2) 教育組織運営

2024 年度より再度精神保健福祉コース長として精神保健福祉コースの教育課程編成および実施を統括している。具体的には精神保健福祉士養成カリキュラム改正の対応、スクール（学校）ソーシャルワーク 教育課程認定履修申請指導等を行っており、また精神保健福祉士国家試験対策や学生のコース選択・就職活動の相談にも対応している。

3. 教育の理念

開学以来本学では少人数教育と様々な体験学修を通して身に付けた幅広い視野や知識を卒業後に社会の様々な場面で生かせるような教育を目指してきた。私の担当する精神保健福祉コースは、様々な生きづらさを抱えた人への支援について学んでいく。「感恩奉仕」の精神に基づき、ソーシャルワークの基盤である価値・知識・技術について実践できる人材を教育していくことが私の教育理念である。

(1) 理念 1 科目内容を実践に結びつける力を身につける。

私の担当する科目は精神障害者や児童生徒の様々な課題やその改善に向けた支援について学ぶ科目である。それゆえに単なる知識の修得だけでなく、それを実践に結びつけ、卒業後に現場で活かしていくことが重要である。そのために多くの事例を活用したり、私自身の現場での経験を授業の中に盛り込み、より具体的に現場のイメージがつくようにすることと実際の様々な知識や技術が現場実践においてどのように活用されているのかを深める教育をしたいと考えている。

(2) 理念 2 障害者や児童生徒を取り巻く社会問題について考える力を身につける。

私の専門領域であるソーシャルワークは、ミクロ、メゾ、マクロ領域で実践を展開するのが特徴である。障害者や児童生徒の抱える課題は様々なマクロレベルの社会のありようが大

きく影響している。シラバスに基づいて授業を展開するとともにその時々社会ありようを考える題材を提供し、マクロレベルからの精神保健福祉、学校ソーシャルワークを考える教育を行っていきたいと考えている。

(3) 理念3 他者と協働し学び合う力を身につける。

私の担当している実習関連科目においては、学生がそれぞれの現場で様々な体験をし、多くの気づきと学びを深めてくる。その体験をお互いに共有すること、そしてそこから互いに学び合うことを通して、他者と協働し学び合う力を身につける教育を行いたいと考えている。

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

(1) 現場での体験並びに資料の活用

授業内容に合わせて私自身が現場で行ってきたことやその状況、また現場で活用されている資料を提示することにより授業内容の理解と現場のイメージがつくような工夫を行っている。

(2) 社会問題に対するソーシャルアクション等の紹介

精神保健福祉並びに学校ソーシャルワークに関連する課題に対して、公益社団法人日本精神保健福祉士協会を始め様々な団体が声明や提言を行っている。そのようなソーシャルアクションの取り組みを紹介することにより、社会における様々な課題に対して精神保健福祉士としてできることを考える機会としている。

(3) 実習における事後学修における学び合いの機会の提供

実習後の事後学修において、自らの実習体験を言葉にして語ること、またそれに耳を傾けそこから学ぶことを意識した機会を設けている。より多くの時間をとり共感できる体験や他者から学ぶ体験をすることにより卒業後の現場で生かせるよう工夫している

5. 教育改善のための努力

(1) 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

各学期に実施される授業評価アンケートの数値及び自由記述のコメントのうち改善すべき点については、改善するよう取り組んでいる。例えば、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」では、授業の最初に前回の振り返りのディスカッションを取り入れる等、課題改善に取り組んでいる。

(2) 改善努力2 職能団体や学会及び社会貢献活動の中から情報収集

私自身が所属している職能団体や学会での活動並びに社会貢献活動の中での経験から授業の活かせるような内容や新しい情報等を収集し、授業の中で活かしてきた。

6. 教育の成果・評価

2021 年度より実習指導者を招いての精神保健福祉援助実習（現：ソーシャルワーク実習）事前協議会、報告会、事後協議会を開始し、継続して取り組んできた。その協議会の場面でも実習指導者からの本学学生への評価は高く、実習先への就職にもつながっている。また小規模大学ながら九州沖縄地区で 2 番目の国家試験の合格者数を継続してきたこと、また 2024 年度には精神保健福祉コース 20 周年を迎え、歴代の諸先輩方とともにこれまで 212 名の精神保健福祉士を輩出してきたことは大きな成果である。

7. 今後の教育に関する課題と目標

私の担当科目は、主に実習等を含めた精神保健福祉士養成指定科目とスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程指定科目である。現場での精神保健福祉士やスクールソーシャルワーカーに対する社会的ニーズは、様々なメンタルヘルス課題や複雑化した社会課題の増加に伴い、さらに高まってきており、今後も多くの人材が求められている。また、それに伴い志望学生も増加してきている。この分野は私が研究フィールドとしてかかわってきた分野でもあり、今後も現場とつながりを持ちながら、そのことを学生の教育に活かし、社会が求めるより良い人材の育成に注力していきたい。

【根拠資料】

- （1）担当科目シラバス
- （2）授業評価アンケート結果